

## 『興亜』(華北交通社員会) 解題・細目(一)

神谷昌史・戸塚麻子

抄録:

『興亜』は日中戦争下の華北において華北交通社員会が発行していた雑誌である。華北交通は一九三九年四月に設立された日本占領下華北の交通運輸会社であり、その社員会の機関誌である『興亜』は、華北交通という「国策会社」について理解する上で資するところが大きい。中国人に対する宣撫・宣伝についての記事や文学・文化関係記事など、多様な誌面構成となっており、同誌により社員達は使命感を駆り立てられたのである。本稿は創刊後一年の記事細目とともに、同誌について解題を試みる。

キーワード: 華北交通、外地メディア、占領下北京、国策、宣撫、愛路工作

### 一

『興亜』は日中戦争下の華北において華北交通社員会から発行されていた雑誌である。

華北交通は一九三九年四月に設立された、日本占領下の華北における交通事業を運営した交通運輸会社である。日本軍による華北占領の進展に従い、南満洲鐵道株式会社(満鉄)は「華北に進出する構えを見せた」<sup>(1)</sup>。一九三五年一〇月には興中公司在「経済建設を具体的に牽引するために国策会社としてまず設立された」。興中公司是満鉄の全額出資によってつくられ、「日滿華三国の経済提携を促進する機関として発足した」<sup>(2)</sup>。「経済提携を促進する」ことにより満鉄主導で華北を日本の勢力下に置くことが目論まれたが、実際には「この子会社設立によって満鉄本体の華北進出は軛をはめられてしま」った<sup>(3)</sup>。満鉄は三十七年八月の「北支善後処置要綱並意見書」において「単なる交通業ではなく基本産業の開発をも担当する意志を示し」、興中公司も軍と同行して工場や鉱山の接收・管理を司ることにより「華北開発の中心機関になろうと画策した」が、これらは「日本財界の反発を買った」とは言うまでもなく、現地軍によっても否定されることとなった<sup>(4)</sup>のである。

一九三八年三月一五日には「帝国政府決定ノ北支那經濟開發方針ニ基キ日滿北支經濟ヲ緊

密ニ結合シテ北支那ノ經濟開發ヲ促進シ以テ北支那ノ繁榮ヲ図リ併テ我国国防經濟力ノ拡充強化ヲ期スル為北支那開發株式会社ヲ設立スルモノトス」と「北支那開發株式会社設立要綱」が閣議決定され、同年一月七日に北支那開發株式会社が設立された<sup>(5)</sup>。北支那開發株式会社が満鉄から興中公司の株を譲り受け、事業を整理し、多くを関係会社として独立させた。そして基幹産業である交通に関して、北支那開發株式会社は関係会社として華北交通株式会社を一九三九年四月に設立した。華北交通は「それまで満鉄の北支事務局が担当していた業務を引き継ぐとともに、関連する満鉄従業員1万8693名(日本人1万5671人、中国人3022人)を転籍して引き取ったのである。こうして支那事変勃発以来、満鉄の手にゆだねられてきた華北の交通業務もまたその手を離れたのである」<sup>(6)</sup>

### 註

(1) 若林宣『帝国日本の交通網―つながらなかつた大東亜共栄圏』青弓社、二〇一六年、一八九頁。

(2) 田中比呂志『戦時期華北在住日本人の華北認識』本庄比佐子他編『華北の発見』東洋文

庫、二〇一三年、一一八頁。

(3) 佐藤尊之『満鉄』という鉄道会社―証言と社内報から検証する40年の現場史』交通新聞社、二〇一二年、一四四頁。

(4) 林采成『華北交通の日中戦争史―中国華北における日本帝国の輸送戦とその歴史的意義』日本経済評論社、二〇一六年、四五頁。

(5) 槐樹会編『北支那開発株式会社之回顧』槐樹会刊行会、一九八一年、八頁。

(6) 佐藤尊之前掲書、一五三―一五四頁。

## 二

『興亜』の創刊号は一九三九年七月に発行され、一九四四年二月の第六三号で終刊している。華北交通株式会社は前述のとおり一九三九年四月に設立されており、同誌は華北交通創立の三カ月後に創刊されたことになる。なお、華北交通社史編集委員会編『華北交通株式会社史』には「興亜」は、昭和十四年七月第一号から昭和十九年十一月の五十七号まで毎号五〇頁の内容のものであった<sup>①</sup>とあり、貴志俊彦「日中戦争と華北交通の時代」は「最終号の五十七号（一九四四年一月）」<sup>②</sup>としているが、第六三号（四四年一月）まで確認済みである。

発行所は華北交通社員会である。奥付によると、華北交通社員会の住所は北京市東長安街十七号、華北交通株式会社に設置されている<sup>③</sup>。創刊当初の編集人・発行人は福富八郎、今回細目を作成した第二号まで変化はないが、第一四号（一九四〇年八月）より編集人・発行人は猪川克己に変わっている。編集人・発行人の福富八郎は満鉄社員会が発行していた雑誌『協和』の編集人を一九三六年から一九三九年まで務めており、のちほど触れる加藤新吉や城所英一も同誌の編集人を担当していた点が共通している<sup>④</sup>。さらにさかのぼると福富八郎は詩人福富善兒（善生）として、北川冬彦、城所英一、富田充らと交流があり、詩誌『面』をもに創刊する（一九三五年）などしている。福富と城所の関係は一九二〇年代前半から始まったようである<sup>⑤</sup>。なお、『興亜』の編集人・発行人を退いた直後、福富は『満洲年鑑附録 満洲職員録 昭和十六年・康德八年度』（満洲日日新聞、一九四〇年二月）の編集人となっている。同書の華北交通社員の一覧に福富の名は見当たらない<sup>⑥</sup>。奥付には編集人の住所として大連日日新聞社と同じものが記載されており、大連日日新聞社に移った可能性が考えられ

る。

印刷人は山田浩通、印刷所は東亜印刷株式会社（奉天市大和区大和町十三号）。終刊まで所在地は変わっても、印刷人・山田浩通、印刷所・東亜印刷株式会社に変化はない。創刊当初から終刊まで「満洲」（奉天・大連）で印刷されていた事実は、満鉄や『協和』との関係を想起させる。実際、満鉄社員会のニュースがまとまって掲載され、また両社員会の交歓会についても報道されるなど、満鉄との人的関係の深さは誌面からも窺うことができる。

## 註

(1) 華北交通社史編集委員会編『華北交通株式会社社史』社団法人華交会、一九八四年、二七頁。

(2) 貴志俊彦・白山眞理編『京都大学人文科学研究所蔵 華北交通写真資料集成論考編』国書刊行会、二〇一六年、五三頁。

(3) 第五号より住所が東長安街二十号に変わり、第一〇号で元の東長安街十七号に戻っている。

(4) 加藤新吉は一九三三年～一九三四年、城所英一は一九三四年～一九三六年にそれぞれ編集人・発行人を務めており、城所の次の担当者が福富である。魏晨「満洲」童話作家・石森延男の登場「満鉄社員会機関誌『協和』における創作活動を手がかりにして」『跨境 日本語文学研究』第一号、二〇一四年、参照。

(5) 和田博文「短詩運動と福富善兒―一九二〇年代のアヴァンギャルド」『総合研究所報』（奈良大学総合研究所）第八号、二〇〇〇年三月、西村将洋「大連の詩人たち―詩誌『亞』と地政学」『同志社国文学』第六一号、二〇〇四年一月、小泉京美「詩・短歌・俳句・川柳の交差点―問題系としての短詩の生成」『日本文学文化』（東洋大学日本文学文化学会）第九号、二〇〇九年、守屋貴嗣「満洲詩生成伝」翰林書房、二〇一二年、などを参照のこと。

(6) 加藤新吉と城所英一は掲載されている。加藤新吉は資業局・参与資業局長、城所英一は資業局・局参与弘報主幹。同書、一一三頁。

さきほど見たように、加藤新吉と城所英一は資業局の所属であったのだが、華北交通の資業局とは「公社業務に直接寄与する調査を実施する部局」であり、資業局には「業務、交通、資料の三課」が設けられ「調査、弘報、情報関係業務」を担当していた<sup>①</sup>。この部署の局長が加藤新吉であり、弘報主幹が城所英一であったことから、『興亜』その他の弘報活動においてこの両者が重要な役割を果たしていたことが窺える。貴志俊彦も「城所こそ、後述する加藤新吉とともに、華北交通の弘報部門を担当したキーパーソンのひとつだった」<sup>②</sup>として二人をキーパーソンと捉えている。

特に加藤は、華北交通株式会社の弘報グラフィ誌『北支』の編集者として奥付に名前が掲載されるとともに、毎号連載コラムを執筆していた。『興亜』においては『北支』ほど前面には出ないまでも、今回細目で拾っただけでも「我等いま戦ひつゝあり」(第五号)、「華北及び華北交通の前途に関する考察」(第九号)、「白耳義のことなど」(第二二号)の三本の原稿を寄せている。中国との戦争は「興亜百年戦争」であり長期戦化が避けられないが、青年こそ「たゞ黙々として責務を果すべし」と説く「我等いま戦ひつゝあり」、前稿と同様の観点から日中関係の現状を分析し、「我等大陸に腰を据えて大陸の土人とを相手に一生の仕事をする者、迷うではない、焦るべきではない、取越苦労をすべきではない」と「文化の使徒の責務」を語る「華北及び華北交通の前途に関する考察」など、日中関係・国際関係の現状を分析しつつ若者に腰を据えての取り組みを説くような論説が多い。

加藤新吉は一八九六年福岡市生まれ。一九二〇年明治大学法科を卒業し満鉄に入社。一九二九〜三〇年には欧米留学、三三〜三四年には前掲のように満鉄社員会の雑誌『協和』編集人を務めている。一九三九年に満鉄から華北交通に派遣され、資業局次長、次いで局長となる。戦後は郷里の村長に選出される<sup>③</sup>。

城所英一は加藤新吉の五歳年下。旅順中学校の同級生だった北川冬彦、富田充とともに大連在住の安西冬衛を訪問し、詩誌『亞』を一九二四年に創刊する。城戸、北川、富田は三号で脱退し、一五年に福富善兒とともに『面』を創刊する。早稲田大学を卒業後、満鉄に入社。「総合誌『新天地』や歌誌『満洲短歌』の編集に携わり「中略」アジア主義的思想傾向をもつ満鉄の言論人のひとりとして、満鉄、そして華北交通の弘報活動に影響を与えた」と貴志俊彦は述

べている<sup>④</sup>。細目を納めた『興亜』一号から二号までは、「千里の道へ」(第三号)、「胡同人語」(第九号)、「胡同人語」(第二二号)を執筆し、六号から二二号までほぼ毎号短歌の選者を担当している。「大同団結した大亜細亜鉄道が」「天馬空を征くが如き活躍をする日」こそ「興亜の大理想は有終の美をなす」(「千里の道へ」)などまさに大アジア主義的言辭がそこかしこに見られるといえるだろう。

## 註

- ① 華北交通社史編集委員会編前掲書、二二―二三頁。  
 ② 「日中戦争と華北交通の時代」貴志俊彦・白山眞理編前掲書、四四頁。  
 ③ 加藤については菊地暁「むすびにかえて―加藤新吉と京大人文研」貴志俊彦・白山眞理編前掲書、菊地暁「人文研探検―新京都学派の履歴書」プロフィール 第17回「華北交通写真」出版と写真展開催によせて―加藤新吉、水野清一、梅原龍三郎のことども」<http://www.keio-up.co.jp/kup/sp/jihunken/0017.html> 最終閲覧日二〇二〇年一月二日。  
 なお、貴志俊彦は「城所とともに華北交通の弘報を先導した加藤は、一九二〇年に明治大学法学部を卒業し、翌年満鉄に入社」としている。「日中戦争と華北交通の時代」貴志俊彦・白山眞理編前掲書、五〇頁。  
 ④ 「日中戦争と華北交通の時代」貴志俊彦・白山眞理編前掲書、四四頁。

## 四

最後に『興亜』の誌面・内容について簡単に概観しておこう。貴志俊彦は次のように述べている。

社員会誌『興亜』のほうは、弘報誌であった『北支』とは違って、社業の動き、社員会のニュース、時事解説、物価動向、文化活動、俳句・短歌、家庭メモ、各種エッセイなどを掲載しており、基本的に社員およびその家族向けの社内誌だった<sup>①</sup>。

貴志が述べるように、『興亜』は「基本的に」「社内誌」であり、華北交通の社内動向やそれをとりまく政治・外交・経済・社会などの動きについてが記事の中心である。ただし、華北交通という多くの社員を抱える巨大な国策会社、しかも戦時下・占領下の華北に在住の社員

および家族が大半という特殊な状況下の「社内誌」である。時局や時事問題の解説が、そのま  
ま会社の存立や読者の身の安全にまで密接につながっているという点で、非常に切迫したり  
アリティをもつて受け取られたのではないかと推察される。そのように考えると、社内報的な  
ニュースと、時局・時事問題解説とが判然とは分けにくいという特徴が指摘できる。

また、幹部社員が一般社員とその家族に向け、大義を説き叱咤激励するという体の記事が多  
い。とりわけ会社創立および雑誌創刊に近い時期や節目の折、危機的な状況の場合などはそう  
した色合いが強くなる傾向がある。たとえば創刊号の巻頭言では次のような大仰な言葉が連  
ねられる。

〔前略〕そして忠烈千古に比類なき皇軍将士の尊き犠牲と、同じく聖業の礎の上に濺  
がれた同僚の碧血とを無駄にすまいと、我等は石に齧りついてもの気魄で、粉骨碎身  
的な御奉公を続けつゝ今日を迎へ、一つの黎明に逢著した。華北交通会社の設立が是  
である。

交通事業の本質に鑑み本会社の使命の重大である事は自ら明かである。  
従つてこの会社の業務に携はる我等は尋常ならざる覚悟を要請せらるゝ事も今更  
言を俟たない。

即ち我等はこの負托に応へむが為、会社設立と時を同うして茲に三箇の信條を掲げ  
て社員会を結成した。今や我等は綱領の真意に徹し、大同団結を鞏固にし、以て花を  
開き、実を結ばしめねばならない。<sup>②</sup>

文学や文化の記事が多いことも指摘できる。これは企業内の文学愛好サークルふうのもの  
というよりも、やはり華北・北支という新しい郷土や戦争という状況を文学的に把握し、ある  
いは形象化し、新しい文学を創造しようという動きであると思われるべきであろう。また、情動的  
な言葉（とりわけ韻文）によって一体感を醸造しようとする側面ももちろん強い。

最後に特徴的な傾向として、中国民衆に対する宣撫・宣伝、とりわけ「愛路工作」に関する  
記事が非常に多いことが挙げられる。『興亜』の記事は社員向けのため、「愛路工作」について  
周知のこととして書かれているので、ここでは一般向けの企業紹介パンフレットである『昭和  
十七年度版 華北交通』を利用して「愛路工作」について説明しておこう。

現在の華北では「共産軍」が「抵抗をつゞけて」おり、彼らが「破壊の主要目標とするのは

交通施設であつて交通路の沿線に出没しては治安の攪乱を企てる。こうした状況下では鉄道  
会社としても「自ら多数の武装せる警務従事員を擁して管下全水陸交通網の警備と保安に任  
じてゐる」。そのような武装による「警備」は重要であるが、それだけでは限度があり「民衆  
の協力なくしては」交通網の保全是不可能である。そこで、沿線に鉄道愛護村を組織し、「附  
近民衆との合作協力によつて交通路の自衛を計」ることが重視される。これが「愛路工作」で  
ある。「つまり民衆の「愛路」に対して鉄道は「愛民」をもつて酬いる、いはゆる民路合作の  
精神と関係とを昂揚して民衆を敵側の手から奪還し完全にこれを把握して親日陣営を築く」  
こと、これが「愛路工作」の目的であつた。その内容については「思想の善導と生活の向上に  
大別」でき、前者としては「剿共思想を鼓吹」することや「簡易日語」の教育があり、農作物  
の種苗や農具の配布などの農村更生策の実践、保健衛生振興、映画演劇などの娯楽の提供によ  
る善導などが後者にあたる。<sup>③</sup>。こうした「愛路工作」などについて、『興亜』ではくりかえし  
その必要が説かれるのである。

こうしたさまざまな記事により、華北交通社員たちの使命感が駆り立てられたことは想像  
に難くない。一九四〇年の段階で三万人ほどいた日本人従業員だけでなく、七万人以上いた中  
国人従業員（多くは肉体労働従事者であろうが）がどのように『興亜』の論調をとらえていた  
のか気になるところではある。<sup>④</sup>

#### 註

- (1) 「日中戦争と華北交通の時代」 貴志俊彦・白山真理編前掲書、五二頁。
- (2) 小池文雄「我等この負托に応へむ―出発に際して―」『興亜』第一号、一九三九年七月。
- (3) 『昭和十七年度版 華北交通』華北交通、一九四一年、二九―三二頁。
- (4) 槐樹会編前掲書には華北交通の一九四〇年九月末時点での日本人従業員数は二九、四九  
五名、中国人従業員数は七三、三八九名、一九四四年九月末時点では日本人従業員数は四四、  
四〇五名、中国人従業員数は二二、二六四名、とある（二三三頁）。

『興亜』第一号—第二号（一九三九年七月—一九四〇年六月）細目

凡例

- 一、書誌事項は、号数、発行年月日、特集号の場合はそのタイトル、の順に記した。
- 一、細目は本文に即して採り、記事名、執筆者名、掲載頁の順に記した。挿絵等については作者名に続いて画と記した。
- 一、本文乃至目次に記されている特集、欄、コーナー、ジャンルなどについては（へ）に入れて表記した。
- 一、本文乃至目次に表記されていないが、ジャンルなどの表記が必要と判断したものについては、「短歌」のように「」に入れて表記した。
- 一、本文に記されている執筆者の肩書や所属については（幹事長）のように（）に入れ、名前の後に付した。
- 一、（英）のように本文中で（）に入れて表記されている執筆者名については、（）を付したままにした。
- 一、註が必要な箇所については\*を付け、各号細目の最後に註を置いた。

第二号（一九三九年七月一日発行）

〈巻頭言〉我等この負担に応へむ—出発に際して—	小池文雄（幹事長）	1
華北交通会社創立の意義	宇佐美寛爾（総裁）	2-3
世界注視の的に 華北交通創業		4-5
社員会綱領の解説	石橋信延（更生課）	6-7
鉄道省現業委員会との比較	山口直一	7
マークの意味		7
欧洲情勢片々		8
華北交通会社組織一覽／鐵路局組織一覽		8
〈グラフ〉 会社創立の日		9
〈グラフ〉 我等の社員会結成*画像なし		10-11

〈グラフ〉 大陸画譜

カメラとペンの現地報告 グラフ誌「北支」七月号 本社資料課編輯

〈華北交通新聞〉

鐵路の華 石川站長の追憶 興亜交通の礎石	田中政蔵（膠濟線蝦蟆屯站長）	16-19
重傷に屈せず心戦 阿部君の華々しい殉職		18
大同列車段の八尋研一君殉職・飯田伊一君殉職		19
福栄部隊五勇士の墓前に捧ぐ〔短歌〕	川端與吉	19
津浦線の話	佐原憲次	20-21
北支の玄関を守る	大尾袈裟助（北京站長）	22
胡同の猛者	みほし	22
鉄道青年隊の結成	人事局厚生課	23
愛路運動の尖兵 少年隊結成さる		24-25
胡同人語	周慶満（天津鐵路局長）	26
人生觀之我見	平山貞齋（張鉄総務処長）	26-27
我等の使命を想ふ	石原沙人	27
北支夏の句鈔〔俳句〕	江口胤秀（人事課長）	28
誕生日	渡邊才二郎（濟鉄經理処長）	28-29
黄河濁水有感	郡新一郎（張家口鐵路局長）	29
日本的に育て上げて見たい	みつのかほる	30
北支動物植物珍話		31
〈満洲欄〉		
〈学藝欄〉 日本語を大陸に普及せよ	垣見四郎（張家口）	32-33
〈学藝欄〉 北交鴻業讃歌〔短歌〕 八道湾子（北京）	たかはし・ぜんさぶろ（天津）	32
〈学藝欄〉 綱領『私生活の向上』に就いて	八木達彌（青島）	33
〈学藝欄〉〔俳句〕	白石久詩子（豊台）	33
〈学藝欄〉 興亜行進譜〔歌詞〕	奥野武夫（古冶機務段）	33
夏季伝染病の予防	大越貢（北京鐵路医院長）	34-35

先づこれだけは注意しよう

(うへむら生) 34

北支雜詠〔短歌〕

萩谷不可止(嶧縣站) 17

主婦よ!! 生活必需品の知識を養へ

江夏清(消費生計所長) 35

北支經濟事情研究座談会

押川一郎・古家誠一・竹内忍・島田源太郎・田子健・

評議員に紅一点 頑張つて下さい高橋きみさん

35

蒙疆の空を飛ぶ

小池亮夫・服部隆造・藤尾豊一・三島隆・瀬川繁夫 18-19

社員会結成準備から役員選挙まで

36-37

蒙疆の空を飛ぶ

坂本義男(中華航空会社) 20-21

事務小誌/靖国神社祭に陸軍墓地清掃

36

「華北交通の歌」歌詞懸賞募集

21

吾等の機関誌 興亜の本質/軍・鉄・民一致の精華 村民匪団を撃退す

37

濰縣城内を行く

田中政蔵(蝦蟇屯站长) 22-23

第一次役員名簿 \*1

38-40

青島の印象

代筆(厚生課) 23

\*1 最終ページのノンブルと誤記

38-40

徐州から

いながわ生 24

第一号(一九三九年八月一日発行)

38-40

臨汾を描く

村田宗光 24-26

〈巻頭言〉我等の力強き発展

1

厚和の横顔

〇生(厚和站) 26

北支・蒙疆の治安と交通

2-3

触景■忘黯爾情 \*1

(豊台機務段) 26

貨物輸送の実績

4-5

中国の子供

山田元繁(古冶扶輪学校) 27

「誠」が第一義—中国人との連繫には—

6-7

張家口の横顔

出口正夫(張家口站) 27

胡同人語

7

北支動植物珍話

みづのかほる 28

興亜新秩序建設の第一歩

8

〈満洲欄〉

29

山東省の特性發揮

8

〈迸る興亜の熱情〉

小池(文雄)幹事長 30

〈グラフ〉鉄道青年隊結成・国防婦人会結成

9

〔無題〕

30

〈グラフ〉興亜記念日 一文字山大行進

10-11

歴史は青年に何を求めるか

長穰(本社聯合会) 30-31

〈グラフ〉大陸画譜

12

黎明に想ふ

高城正矩(京鉄聯合会) 31-32

總裁一行に随行して

13

明日への新日本

秋山良次(天鉄聯合会) 32

〈華北交通新聞〉

14-15

青年須く新東亜の建設者たれ

田所修一(張鉄聯合会) 32-33

行軍に就いて

16-17

墓場を守れ

上野満(済鉄聯合会) 33

行軍隨記

16-17

〈社員会ニュース〉

34-35

全東亜民族の感激 興亜週間行事に全社員會員参加す

17

本部各部の陣容と方針

36-40

一文字山行進賦〔短歌〕

17

吾等の機関誌 興亜の本質

39

別居〔短歌〕

17

宣言/綱領

40

\* 1 ■は左が「拜」の片の部分で、右が「下」。正しくは「那」か。

第三号（一九三九年九月一日発行）

〈巻頭言〉千里の道へ

綱領

愛護村民に食糧の配給 微笑む村長さん

宣言

路警問答

「誠」の最短距離―中国人との連繫には―（完）

北京鉄路学院歌（歌詞）

八月の行事（旧暦）／八月の習俗（旧暦）

防諜片語

懸賞募集！「華北交通の歌」歌詞

〈グラフ〉各地に動く反英の風景

〈グラフ〉救済に活躍する同僚と協力する愛護村民

〈グラフ〉建設へ―建設へ―偉大なる試煉の中にて

花を捧げて傷病兵を慰問……………本社婦人部員

山東上古史談

「北支開発」の新総裁 賀屋興宣氏の横顔

留守宅断片

故大谷総裁を憶ふ

中国人に化ける

洋車夫の昼寝（挿絵）

「興亜」原稿依頼の件

〈各地だより〉降雨と黄塵の朔縣から

什刹海への河沿（挿絵）

〈各地だより〉青島通信

〈各地だより〉夏の北戴河へ

交民巷の昼寝（挿絵）

〈各地だより〉ノカルガンの街

客を待つ樹蔭（挿絵）

〈短歌〉雑詠

〈短歌〉蝦蟇屯にて

〈俳句〉雑詠

私の従軍記

第一線に派遣された北京列車段員座談会

南部治郎・藤間文秋・西田恒信・北口正喜・上岡正晴・河野駒一・森藤進

〈華北交通新聞〉

〈愛路映画シナリオ〉当選 張茂林の一家

〈文藝〉詩 日語教室・光ない子たち

〈文藝〉和歌 雑詠

〈自由論壇〉交通会社員の意気を發揮せよ

〈自由論壇〉列車長の面子

〈自由論壇〉雑感

北京の学校

論外ならぬこと

北支動植物珍話

〈満鉄社員会だより〉

鉄道人華語講座 第二回

中国の女性

割増金付第七回貯蓄債券当籤番号発表

〈社員会ニュース〉

社員会の前進 第一回幹事会 議題豊富に開かる

矢島達三（青島） 18

佐々木春松（天津用度事務所） 18 - 19

柳瀬正夢画 19

岡本節（張家口鉄路局） 19 - 20

柳瀬正夢画 20

萩谷不可止（嶧縣站） 20

田中政蔵（済鉄事故科） 20

白石久詩子（豊豆） 20

E・P・N（北京鉄路局警務処） 21

林出賢次郎（北京大使館一等書記官） 6 - 7

7

7

文書課防衛 8

華北交通社員会 8

9

10 - 11

12

井出黒潮（青島自動車営業所） 13

14

（蘆澤記） 14

荒木章（北支那開發会社） 15

田中政蔵（済鉄事故科） 16 - 17

柳瀬正夢画 17

柳瀬正夢画 17

松井敏秋（同蒲線朔縣站） 18

柳瀬正夢画 18

柳瀬正夢画 18

第四号（一九三九年一〇月一日発行）『水害と建設』特輯号

〔卷頭言〕 全會員総意の暢達  
綱領

森次勲（宣伝班長）

1

今次水害の跡を辿りて 全線の水災と建設の展望

（文責・山谷）

2-7

〔前線慰問に使用して〕 誇るべき我等の同僚

小池文雄（幹事長）

3

〔前線慰問に使用して〕 慰問の辞は感謝の言葉に

田中芬（本社聯合會第二分會長）

3

〔前線慰問に使用して〕 平静に部署をまもる同僚

本庄進（常任幹事）

7

天津の水害に应じて

大尾袈裟助（北京站长）

8

速刻応募せよ！『華北交通の歌』懸賞募集

華北交通社員會

8

〔グラフ〕 第一回『興亜奉公日』

9

〔グラフ〕 水と闘ふ天津聯合會

10-11

〔グラフ〕 回収隊の一日 かくて不用品は回収されて行く

12

京包線 南口二三保間の水害復旧作業

樋口兼英（保線課）

13

水害の前線見聞記 同蒲線より京漢線へ

笹原繁（北京鐵路局經理処）

14-15

『我等はかく戦へり』 社員家族の天津引上げとその前後

〔新輪〕編輯部芝本善彦記

16-17

井上天鉄聯厚生部長は語る

〔新輪〕編輯部芝本善彦記

16-17

〔鐵路の散華 濟鉄青年隊初の戦死・機関車を死守して斃る

17

水運上から見た北支河川の話

松枝一夫（水運部水運課）

18-19

北支の自動車交通事業と我が社の使命

竹森愷男（自動車部運輸課長）

20-21

宝庫を駈る開発の車輪 自動車路線大拡張

21

〔華北交通新聞〕

22-23

〔滿鉄社員會たより〕

24

北支動植物珍話

みづの・かほる

25

消費生計座談會

太田理事夫人・林原監察夫人・高橋総務局長夫人・沖田人事

局長夫人・竹村工務処長夫人・大田工作課長夫人・江口胤秀（本部事業部長）

26-28

・竹森愷男（本社聯事業部長・寺坂亮一（厚生課長）・江夏清（消費生計所  
長・その他婦人社員・事業部委員・厚生課員

一問一答 高橋常任幹事さんの巻

29

〔各地だより〕 娘子関まで

川内正光（石家莊機務段娘子関派遣員）

30

〔各地だより〕 太原便り

蛙舳同（太原列車段）

30-31

〔各地だより〕 唐山物語

山下進（唐山警務段）

31

鐵道人華語講座 第二回

大木一郎

32-33

〔社員會ニュース〕

34-40

消費生計所主要配給品売価表（九月一日現在）

41-42

第五号（一九三九年十一月一日発行）

〔卷頭言〕 華北鐵道精神

江口胤秀（事業部長）

1

綱領

1

我等いま戦ひつゝあり

加藤新吉

2-3

二つの匪襲

井出黒潮（青島自動車營業所主任）

4-5

おらが呂庄は

池田生（呂庄站）

6

時局の波動 宣伝の世界争覇戦

（S生）

7

北支動植物珍話

みづの・かほる

8

〔グラフ〕 北京の心身動員運動

〔資料課撮影〕

9

〔グラフ〕 自然に立ち向ふ同僚

〔保線課・建設課撮影〕

10-11

〔グラフ〕 秋空の下に

〔資料課撮影〕

12

北京では斯く尽した―天津罹災社員家族は―

〔厚生課員〕

13

留守宅は妾たちで守ります

蘆澤生（厚生課留守宅係）

13

破壊に抗して 懐来、南口両站长に訊く京包線水害復旧苦心談

〔新輪〕編輯部芝本善彦記

14-15

故森田銀一君表彰さる 李・張の中国同僚も共に

15

喇嘛廟會の「打鬼」

今村鴻明（張家口鐵路局総務処）

16-17

牛に化したスパイの話	文書課防衛	16 - 17	〈満鉄社員会だより〉	38 - 39
洋車談義	石敢當	18 - 19	消費生計所主要配給品売価表 (十月十五日現在)	人事局厚生課
消費生計座談会 (二)	太田理事夫人・林原監察夫人・高橋総務局長夫人・		案内 文部省推薦図書 (十月の分)	42
沖田人事局長夫人・竹村工務処長夫人・大田工作課長夫人・笹本、石野京鉄				
聯婦人部員・永倉本部婦人部員・江口胤秀 (本部事業部長・竹森愷男 (本				
社聯事業部長・寺坂亮一 (厚生課長)・江夏清 (消費生計所長)・戸田消費				
生計所主任・古味、松本消費生計所員・中西厚生課生計員・杉本、松本本社				
聯事業部副部長・木谷、高山、三井本部事業部委員・利光、樺山本社聯事業				
部委員		20 - 22	第六号 (一九三九年二月一日発行) 特輯 第一回評議員会議事録	1
本庄常任幹事との一問一答		23	見よ!我等の総意 (口絵写真)	2 - 34
大同附近北魏文化の遺跡	下森邦郎	23	第二回評議員会議事録	2 - 34
〈華北交通新聞〉		24 - 25	回天の聖業達成のため健全無比なる総意を築かん 小池幹事長の挨拶	4 - 5
体育隨感	1生	26 - 27	責任と使命は重大衷心成功を祈念す 満鉄社員会幹事長の祝辞	11
協定医院に就いて	人事局厚生課共済	26 - 27	〈グラフ〉 総意を練る熱闘十時間	17
談話室 ジンギスカン鉄道……尾崎士郎さん語る		27	〈グラフ〉 測量隊は進む!	18 - 19
青縣便り	竹林等 (青縣駐)	27	〈グラフ〉 朗らかなる運動の日	18 - 19
鐵道人華語講座	大木一郎 (総務局文書課編訳)	28 - 29	〈グラフ〉 婦人部の動き	18 - 19
本社語学 (華語) 検定試験問題と解答	(大木一郎解答)	29	宣言	29
〈文藝〉 石原、城所両氏を俳句、短歌の選者に		30	大任了へて 総裁の招宴会へ	34
〈文藝〉 〈短歌〉 北支雜詠	萩谷不可止 (嶧縣駐)	30	綱領の精神を活かせ―荒井理事の挨拶―深い理解に応へむ―小池幹事長の答辞―	35
〈文藝〉 〈短歌〉 故郷の子をおもふ	阿部輝雄 (張家口鐵路工廠經理係)	30	見よ堅剛の意気と熱 鐵道青年隊行進歌 当選歌詞発表!!	35
〈文藝〉 〈小説〉 夏雲	田中政造 (濟南鐵路局)	30	当選 三牧静男 (厚生課)・千葉宗雄 (中央鐵路学院)	35
〈文藝〉 〈自由論談〉 感じたるまゝ	蛙触同	30 - 31	〈華北交通新聞〉	36 - 37
〈文藝〉 〈自由論談〉 讀書について	E生 (本社經理部)	31	満鉄華北交通婦人部員交驩座談会	[出席者名略] 38 - 43
山東上古史談 (続)	押井生	31	写真募集「雪」と「氷」の誌上写真展	42
〈社員会ニュース〉	井出黒潮	32	満鉄社員会交驩使節を迎へて 天津・北京・張家口	44 - 45
		33 - 40	今年度に於ける米の供給不足と北支に於ける食糧米の統制 戸田松三郎 (厚生課)	46
			節米総動員はお台所から 七分搗米の炊き方と代用食の献立 (厚生課 M・Y生)	46 - 47
			冬期小児伝染病と予防注射	47
			〈文藝〉 〈俳句〉 石原沙人選 秋元金也 (神頭駐) 金子蟹石 (張家口) 小澤隆山	47
			〈文藝〉 〈北京〉 附言 (沙人生)	48

〔文藝〕 短歌 城所英一選	尚吾想 (青島) 田中政造 (瀋南) 萩谷不可止	〔管内自慢の大きなものと小さなもの〕 大きなものが見たいなら張家口管内——	16-17
(嶧縣站) 福永軍治郎 (石家荘) 笹原菁生 (北京) 川内正光 (石家荘) 藤波		泰山に登る	
加奈 (北京)		石家荘の工夫市—労働市場—	18-19
〔文藝〕 詩 編輯班選 大陸再生期抒情	加藤正之助	〔管内自慢の大きなものと小さなもの〕 京鉄管内ではざつとこんなものさ!	19
〔文藝〕 婦人部演芸会に寄す・祖国・雑詠〔短歌〕	尚吾想	をんなの支那服礼讃	20-21
〔説書欄〕 中国百科辞典編纂の提唱	中村恵	北京の庭樹	21
〔説書欄〕 僕はこの本を諸君に推薦する	49	満関支向輸出調整と価格引上停止令の話	22-23
前号「鉄道人華語講座」中の正誤	49	特症取扱問答	23
鉄道人華語講座	大木一郎 (総務局文書課編訳)	伝書鳩の功	24-25
〔社員会ニュース〕 *1	51-58	共済に於ける別居家族承認願に就いて 人事部厚生課共済	26
〔満鉄社員会たより〕	56-57	我等が理想 (鴨緑江節)〔歌詞〕	26
消費生計所主要配給品売価表 (十一月十五日現在)	59-60	北支 (草津節)・北京 (磯節)〔歌詞〕	26
*1 52-53 ページの間に読者からの意見聴取のための郵便用紙を挟み込み。		北京站で拾った話	27
		山東上古史談 (完)	28-29
第七号 (一九四〇年一月一日発行)		井上黒潮 (青島自動車営業所)	28-29
紀元二千六百年新春頌〔俳句〕	石原沙人 1	丸山熊太郎 (濟南鐵路局經理処)	28-29
民族自覚運動について	高岡熊雄 (元北海道帝国大学総長) 2-5	華語講師の配属を望む	T・M生 (臨汾站) 30
竜の歌〔詩〕	古川賢一郎 4	節米運動はお台所から (その二) —簡単な支那料理の献立— (M・Y生 厚生課)	30
北支蒙疆いろはかるた	(資料課提供) 6-8	〔短歌 城所英一選〕	
大陸技術小感	田村泰次郎 6	北京に旅して	萩谷不可止 (嶧縣站) 30
美を壊すもの	湯浅克衛 7	晩秋雑詠	井上忠雄 (北京) 30
掴みきれない北京	田郷虎雄 8	天津にて	純二 (天津) 30
〔グラフ〕 愛路列車来たる!	(愛路課撮影) 9-12	弟妹	藤波加奈 (北京) 30
愛路列車来た!	*1	日支の新年の句	石原沙人 31
〔華北交通新聞〕	石井忠郎 (愛路課) 13	良書推薦	31
〔各地たより〕 運城たより	14-15	北京洋車悲話	31
〔各地たより〕 康荘たより	16-18	愛路工作日記	33
		蘆溝橋畔馬蹄屋〔挿絵〕	33
		吉本南路 (濟南鐵路局警務処)	33
		小野澤巨画	33

鉄道青年隊員

鐵道人華語講座 第五回

〈社員会ニュース〉

〈満鉄社員会だより〉

消費生計所主要配給品売価表 (十二月五日現在)

\*1 「グラフ頁参照」とある。

第八号 (一九四〇年二月一日発行)

〈巻頭言〉 挙つて新東亜建設の選士たれ

太原を語る

太原小景 (俳句)

八紘一宇・中日一家の覚悟

伸びる山西

北京のお正月

〈私の初夢〉 黄河の動力化

袖二題 (詩)

〈グラフ〉 聖地に仰ぐ初日の出

〈グラフ〉 太原聯合会会結成!!

〈グラフ〉 栄えゆく愛護村

興亜精神の再検討

陸夢熊監事を悼む

〈華北交通新聞〉

青島の一日

青島と海

青島の或る面

青島抒情 (詩)

倭寇と山東省

岡本節 (張家口鉄路局) 34-38

大木一郎 37

38-42

40-44

人事局厚生課 43-44

永田久次郎 (庶務部長) 1

川原貞夫 (太原鉄路局総務処) 2-3

飯塚蘆水 (太原鉄路局工務処) 3

宇佐美寛爾 (総裁) 4

小山省歸 (太原鉄路局経理処) 4-5

大木一郎 (文書課) 5-7

平田驥一郎 (濟南鉄路局長) 8

(みづの・かほる) 8

(資料課提供) 9

(太原聯合会提供) 10-11

(濟南・太原聯合会提供) 12

竹森登男 13

孫瑞林 (理事) 13

14-15

相原二郎 (青島鉄路出張所) 16-17

八木達彌 (青島自動車事務所) 17-18

尚吾想 (青島鉄路医院) 18

加藤正之助 (濟南鉄路局) 18

井出黒潮 (青島自動車営業所) 19-20

苦難を押しきつて隴海沿線慰問行

培はれん華北交通魂!! 平田實君 ノモンハンに花と散る (張家口聯合会弘報部) 23

〈修養講話〉 縦と横との真理

留守宅を持つ社員へ

「ズルフオンアミド」劑

教育問題相談

婦人社員の制服型について

精神生活の拡充と俳句

〈短歌〉 城所英一選

匪襲

手術室

秋

遺骨を送る

雑詠

万寿寺

良書推薦

鐵道人華語講座 第六回

節米運動はお台所から (その三) — 簡単な支那料理の献立 —

大陸献立表 — お台所メモ —

〈社員会ニュース〉

〈満鉄社員会だより〉

消費生計所主要配給品売価表 (一月十日現在)

(厚生課 小川亮二) 21-23

(張家口聯合会弘報部) 23

大賀元介 24-28

(厚生課留守宅係) 29-31

高橋一雄 (北京鉄路医院医学博士) 29-31

(厚生部相談所) 31

鈴木富久子 (洋裁講師) 32

石原沙人 33

萩谷不可止 (嶧縣站) 33

今村義夫 (石家荘) 33

松井敏秋 (朔縣站) 33

川北宗次郎 (厚和) 33

福永軍治郎 (石家荘) 33

宗津美一郎 (建設課) 33

大木一郎 34-35

(厚生課 M・Y 生) 34

(厚生課 T・I 生) 34-35

(厚生課) 36-40

38-39

人事局厚生課 41-42

第九号 (一九四〇年三月一日発行)

〈巻頭言〉 職場を護れ

華北及び華北交通の前途に関する考察

ねばらうではないか 頑張らうではないか

板屋猛 (弘報部編輯班長) 1

加藤新吉 (常任理事) 2-3

第二回幹事会に於ける小池幹事長の挨拶	4-5	〈社員会ニュース〉	37-40
胡同人語	(城所英一) 5	〈満鉄社員会だより〉	39
最近のソ聯と北支蒙疆	茂森唯士 6-7	青年部 文化四大行事に参加せよ!	
窓を展く	(H) 7	華北交通青年雄弁大会開催・洋画展作品募集・写真展作品募集・懸賞論文募集	40
全同僚の赤心を籠めて檀原神宮に詣つ	二千六百年紀元節祭典参列の記	〈消費生計所主要配給品売価表〉(二月十日現在)	人事局厚生課 41-2
	(板屋 編集班長) 8		
〈グラフ〉第二回幹事会・満鉄華北交通社員会	北京連絡会議		
〈グラフ〉興亜の資源	(資料課提供) 9	第一〇号(一九四〇年四月一日発行)	
〈グラフ〉沿線点描	(資料課提供) 10-11	〈巻頭言〉信念	(幹事長 小池文雄) 1
「華北交通」社員の誇	南京特務機關揚州班 桂班長の頌徳碑建立さる	華北交通会社の一ケ年	2-3
隴海線の護り	山崎部隊の歌	支那事変論功行賞発令 我等が先達同僚に輝く栄誉	3
〈華北交通新聞〉	牧野龍夫(上海) 13	戦時下の英国鉄道	中村元節(運輸部貨物課) 4-5
鉄道青年隊員の動向	(瀨川中尉) 13	〈会社創業一周年を祝つて〉華北交通従業員諸氏におくる言葉〔短歌〕	長谷川如是閑 5
青年と事変収拾	鈴木昇 16-17	中国新中央政府の首都 南京の戦跡・史蹟だより	星澤秀信(資業局南京駐在員) 6-7
私達の理想と現実	川西睦 18	〈会社創業一周年を祝つて〉内地春信	新明正道 7
現実から理想へ	春名静枝 19	我が社の使命と自己と同僚の正しい認識	後藤悌次(副総裁) 8
早春の花言葉	高田千代子 19	会社創業一周年記念週間行事表	8
三頭嶺麓の激戦	(京鉄総資升田) 19	〈グラフ〉日華の親和 興亜の礎石	(資料課提供) 9
第二回幹事会開かる	城下嘉三治 20-22	〈グラフ〉北支の農村・棉	(資料課提供) 10-11
電報	23-29	〈グラフ〉花・春	(資料課提供) 12
名刺(ミンピエン)	29	「社員健闘記」募集	13
〈満鉄社員会 華北交通社員会 第二回連絡会議〉	井上隆一 29	〈華北交通新聞〉	14-15
華北交通の近状	小池文夫(華北交通社員会幹事長) 30-31	華北交通の歌 待望の「我等の歌詞」発表	(弘報部長) 16-17
満鉄同僚の近情	菅野誠(満鉄社員会幹事長) 31-32	静岡大火を顧みて―留守宅救護の思ひ出―	東京事務所留守宅係 18-19
時局と華北交通・住宅の問題	33-35	本社聯合会青年部文化団 志向調査中間報告	建川正美 19-20
鉄道人華語講座 第七回	大木一郎 38	〈会社創業一周年を祝つて〉幕末の北方と華北	長谷川伸 20
		草花の作り方 この通り実行すれば北支でも美しい花が楽しめます	21

美人蕉									
茶から見た中国									
〈会社創業一周年を祝つて〉 社員会の皆様へ									
三頭鎗麗の激戦 (完)									
華北交通青年雄弁大会開催									
寧武の思ひ出									
共済給与の話									
〈会社創業一周年を祝つて〉 建国的な仕事は交通から									
汾河の唄									
〈会社創業一周年を祝つて〉 春の風									
お米の話									
大陸食奨励 饅頭の作り方									
〈会社創業一周年を祝つて〉 華北交通会社の皆様へ									
日本女性の心構へ									
婦人社員に捧ぐ									
〈文藝〉 (俳句) 石原沙人選									
蒙疆迎年									
北京の晩秋									
寒夜思家									
雑詠									
(注意)									
〈文藝〉 (短歌) 城所英一選									
乗務									
孤寓									
前線									
早春									
国境									
みづの・かほる	32								
大菊保 (天津鐵路学院)	33								
川村文子	33								
城下嘉三治 (輸送委員会幹事室)	24-25								
(青年部文化団)	25								
千坂吉郎 (大同消費生計所)	26-27								
26-29									
松井翠聲	27								
蛙舳同 (太原列車段)	28-29								
長谷川時雨	29								
黄穂 (自動車部技術課)	30-31								
(厚生課 M・Y生)	31								
吉岡彌生	31								
山口信義	32-33								
大井憲吉 (資料課)	33								
金子蟹石 (張鉄)	34								
種田史朗 (警務部)	34								
田中眞砂城 (済鉄)	34								
佐々木嶺々 (豊台站)	34								
(沙人生)	34								
上野ひさし (原平)	34								
曉鳴鶴 (済南)	34								
諸橋龍泉 (運城)	34								
天津京子 (天津)	34								
高山峰重 (済南)	34								
良書推薦									
鉄道人華語講座 第八回									
〈社員会ニュース〉									
〈満鉄社員会だより〉									
消費生計所主要配給品売価表 (三月十日現在)									
古川賢一郎	34								
大木一郎	35								
36-40									
38-39									
人事局厚生課	41-42								
<b>第一号 (一九四〇年五月一日発行) 特輯 第二回評議員会議事録</b>									
〈巻頭言〉 新たな生命の自覚									
神代新市 (北京第二聯合会長)	1								
〈第二回評議員会議事録〉	2-8								
宣言	3								
世紀を劃すべき使命に起たん―小池幹事長の挨拶―	4-5								
〈グラフ〉 自動車路線一千万キロ突破	9								
(資料課提供)									
〈グラフ〉 塩	10-11								
(資料課提供)									
〈グラフ〉 厚生列車出発!	12								
(資料課提供)									
〈第二回評議員会議事録〉	13-29								
指導的立場にたつ把握力を持つて	26-27								
宇佐美寛爾 (総裁)									
華北交通の歌 歌詞余談	30-31								
(弘報部長)									
華北交通の歌	31								
華北交通社員会編	31								
せめて書かせて下さい―看護婦の手帳から―	31								
丘村千恵 (北京鐵路医院)	31								
〈華北交通新聞〉	32-33								
〈第一回厚生列車の募進行!〉 福祉の山を積んで									
鈴木昇 (編輯部)	34								
―前線将兵、社員、愛護村民の慰問―									
〈第一回厚生列車の募進行!〉 処女コースへ 農民と厚生列車	34-36								
警備問答	34-36								
雲樵	34-36								
〈社員会ニュース〉	37-40								
〈満鉄社員会だより〉	40								

